

4 大麦

(1) 国際的な大麦需給の概要

○2009/10年度の大麦需給（予測）のポイント

大麦の供給面では、豊作であった前年度に比べて単収が低下することから、世界的な生産量の減少が見込まれている。

需要面では、飼料用需要およびその他需要が増加するとの見込みから、消費量の増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を上回ることから期末在庫量が増加すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、収穫面積の増加が見込まれるものの、好天に恵まれた昨年と比較して、単収が低下するとの見通しから、豪州等で増産となるものの、ロシア、EU、カナダ、ウクライナ等の主要生産国で減産が見込まれ、世界全体では前年度より4.7百万トン減少(▲3.1%)し、149.2百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.3百万トン上方修正された。

【消費量】

消費量は、カナダ、米国等で減少するものの、飼料用需要を中心にEU、ウクライナで増加が見込まれ、世界全体では前年度より3.4百万トン増加(2.4%)し、147.2百万トンとなる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で0.1百万トン上方修正されており、国別にはサウジアラビアで上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、2.6百万トン減少(▲12.9%)し、17.3百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では、豪州等で増加が見込まれるものの、EU、ロシア等では減少が見込まれている。輸入国では、サウジアラビアで増加、イランやシリア等で減少が見込まれている。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で0.1百万トン上方修正された。輸出国については、カザフスタンで上方修正、輸入国についてはサウジアラビアで上方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、世界全体で生産量が消費量を上回り、ロシア、ウクライナ、カナダ等で減少するものの、EU、米国、豪州で増加し、世界全体では前年度より2.0百万トン増加(6.7%)し、31.3百万トンとなる見込みであり、期末在庫率は21.2%(0.9ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で0.6百万トン下方修正されており、国別には、サウジアラビアで上方修正され、ウクライナ、豪州で下方修正された。

表-1 世界の大麦需給

(単位:百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	132.7	153.9	149.2	0.3	▲ 3.1
EU-27	57.5	65.5	62.0	-	▲ 5.3
ロシア	15.7	23.1	18.0	-	▲ 22.1
カナダ	11.0	11.8	9.5	-	▲ 19.2
ウクライナ	6.0	12.6	12.0	-	▲ 4.8
豪州	7.2	7.7	8.3	-	8.2
トルコ	6.0	5.6	6.0	-	7.1
米国	4.6	5.2	4.9	-	▲ 5.4
消費量	134.3	143.8	147.2	0.1	2.4
うち飼料用	92.1	100.2	102.7	0.4	2.4
EU-27	54.2	57.5	59.0	-	2.6
ロシア	15.1	17.1	17.1	-	0.0
カナダ	7.9	9.1	8.5	-	▲ 6.8
サウジアラビア	7.4	7.7	7.9	0.4	2.6
トルコ	6.5	5.9	5.9	-	0.0
ウクライナ	4.9	6.0	6.4	-	5.8
米国	4.3	5.1	4.8	-	▲ 6.6
貿易量	15.5	19.9	17.3	0.1	▲ 12.9
(輸出)					
ウクライナ	1.0	6.4	6.0	-	▲ 5.8
豪州	3.4	3.2	3.8	-	17.5
EU-27	3.8	3.6	2.0	-	▲ 44.4
カナダ	3.0	1.5	1.5	-	1.1
ロシア	1.0	3.4	2.2	-	▲ 36.1
アルゼンチン	0.9	0.9	0.9	-	0.0
カザフスタン	0.8	0.3	0.7	0.2	140.5
(輸入)					
サウジアラビア	7.4	7.6	8.0	0.5	5.3
日本	1.4	1.3	1.4	-	4.0
中国	1.1	1.6	1.5	-	▲ 3.3
イラン	0.3	1.9	1.0	-	▲ 47.4
シリア	0.2	1.8	1.0	-	▲ 42.9
チュニジア	0.6	0.4	0.3	-	▲ 18.0
モロッコ	0.3	0.3	0.1	-	▲ 69.5
期末在庫量	19.2	29.3	31.3	▲ 0.6	6.7
EU-27	5.7	10.4	11.5	-	10.8
カナダ	1.6	2.8	2.5	-	▲ 13.4
豪州	1.7	2.6	2.8	▲ 0.1	7.7
ロシア	1.0	3.6	2.4	-	▲ 33.0
サウジアラビア	2.4	2.3	2.4	0.1	3.0
米国	1.5	1.9	2.5	-	30.8
ウクライナ	0.8	1.1	0.7	▲ 0.7	▲ 32.6
期末在庫率	14.3%	20.4%	21.2%	▲ 0.4	0.9

資料: USDA 「Grain: World Markets and Trade」、
「PS&D」

(2) 大麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 豪州

【需給状況】

豪州の生産量は、収穫面積は前年度より減少するが、2年連続で単収が増加するため、生産量は前年度より0.6百万トン増加（8.2%）し、8.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用向け需要の増加により、前年度より0.8百万トン増加（2.9%）し、4.3百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.6百万トン増加（17.5%）し、3.8百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.2百万トン増加（7.7%）し、2.8百万トンとなる見込みである。また、期末在庫率は34.5%（4.0ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、2008/09年度の消費量が0.3百万トン上方修正、輸出量が0.3百万トン下方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量がわずかに下方修正された。また、2009/10年度の消費量がわずかに上方修正された。この結果、期末在庫が0.1百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度については、ほぼ収穫が終了した。クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州は、生育期の降雨が少なかったため、前年度より生産量は減少するが、豪州南東部では生育期に適した降雨があったため、生産量が増加する見込みである。西豪州及び豪州南東部では降雨により収穫が遅れた。

イ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、収穫面積は前年より減少し、豊作であった前年に比べ産地の乾燥等により単収が低下することから、前年度より2.3百万トン減少（▲19.2%）し、9.5百万トンとなると見込まれている。

消費量は、生産量の減少から前年度より0.6百万トン減少（▲6.8%）し、8.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は前年度並の1.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.3百万トン減少（▲13.4%）し2.5百万トンとなり、期末在庫率は24.8%（2.2ポイント減）と低下すると見込まれている。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の収穫は、平原三州で11月中旬に、概ね終了した。生育期の産地の乾燥等のため、豊作であった前年よりは単収が減少する見込みである。

我が国の輸入先国シェア 1位（2008年数量ベース44.5%）
世界の生産量シェア 5位（2009/10年度 5.6%）
輸出量シェア 2位（2009/10年度 21.9%）

表－2 豪州の大麦需給（市場年度：11月～翌年10月）

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.2	7.7	8.3 (8.3)	-	8.2
消費量	3.1	3.5	4.3 (2.6)	0.0	22.9
うち飼料用	2.1	2.5	3.2 (2.2)	-	28.0
輸出量	3.4	3.2	3.8 (4.3)	-	17.5
輸入量	0.0	0.0	0.0 (...)	-	...
期末在庫量	1.7	2.6	2.8 (...)	▲0.1	7.7
期末在庫率	25.6%	38.6%	34.5% (...)	▲0.0	▲4.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	4.80	4.79	4.50 (4.48)	-	▲6.1
単収(t/ha)	1.49	1.60	1.84 (1.85)	-	15.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

ABARE 「Australian crop report (8 December 2009)」(※ABAREは作付面積)

我が国の輸入先国シェア 3位（2008年数量ベース21.9%）
世界の生産量シェア 4位（2009/10年度 6.4%）
輸出量シェア 5位（2009/10年度 8.7%）

表－3 カナダの大麦需給（市場年度：8月～翌年7月）

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	11.0	11.8	9.5 (9.5)	-	▲19.2
消費量	7.9	9.1	8.5 (7.9)	-	▲6.8
うち飼料用	6.6	7.7	7.1 (7.4)	-	▲8.0
輸出量	3.0	1.5	1.5 (2.3)	-	1.1
輸入量	0.1	0.0	0.1 (0.0)	-	19.0
期末在庫量	1.6	2.8	2.5 (2.2)	-	▲13.4
期末在庫率	14.3%	27.0%	24.8% (27.0%)	-	▲2.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.00	3.50	2.92 (2.92)	-	▲16.6
単収(t/ha)	2.75	3.36	3.26 (3.26)	-	▲3.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

AAFC 「Grains and Oilseeds Outlook (15 December 2009)」

ウ 米国

【需給状況】

米国の生産量は、単収は前年度より増加するものの、収穫面積が減少することから前年度より0.3百万トン減少（▲5.4%）し、4.9百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少により、前年度より0.3百万トン減少（▲6.6%）し、4.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.2百万トン（▲62.2%）減少し、0.1百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.1百万トン（▲13.9%）減少し、0.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.6百万トン増加（30.8%）して2.5百万トンとなり、期末在庫率は51.6%（15.9ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、輸出量、輸入量がそれぞれ0.1百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の収穫は、9月に概ね終了した。

〔我が国の輸入先国シェア2位（2008年数量ベース32.1%）
世界の生産量シェア 7位（2009/10年度 3.3%）〕

表－4 米国の大麦需給（市場年度：6月～翌年5月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10 (単位:百万トン)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	4.6	5.2	4.9	-	▲ 5.4
消費量	4.3	5.1	4.8	-	▲ 6.6
うち飼料用	0.7	1.4	1.1	-	▲ 24.8
輸 出 量	0.9	0.3	0.1	▲ 0.1	▲ 62.2
輸 入 量	0.6	0.6	0.5	▲ 0.1	▲ 13.9
期末在庫量	1.5	1.9	2.5	-	30.8
期末在庫率	28.4%	35.7%	51.6%	1.1	15.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.42	1.53	1.26	-	▲ 17.6
単収(t/ha)	3.23	3.42	3.93	-	14.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

エ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、豊作であった前年度と比較して、スペインや東欧等の乾燥により単収が前年度より低下することと、収穫面積が減少するため、前年度より3.5百万トン減少(▲5.3%)し、62.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増大により、前年度より1.5百万トン増加(2.6%)し、59.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より1.6百万トン減少(▲44.4%)し、2.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より1.1百万トン増加(10.8%)し11.5百万トンとなり、期末在庫率は18.8%(1.9ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2010/11年度の冬大麦の作付けは、10月中旬に概ね終了した。作付面積は減少する見込みである。12月以降、休眠期に入っている。

【貿易情報】

穀物の輸入関税を2008年1月より停止していたが、2008年10年に再導入した。

オ ウクライナ

【需給状況】

ウクライナの実産量は、天候に恵まれ豊作であった前年度と比較して、収穫面積は増加するものの、雨が少なかったことから単収が低下すると見込まれ、前年度より0.6百万トン減少(▲4.8%)し、12.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.4百万トン増加(5.8%)し、6.4百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少を受け、前年度より0.4百万トン減少(▲5.8%)し、6.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.4百万トン減少(▲32.6%)し、0.7百万トンとなり、期末在庫率は5.8%(2.8ポイント減)と低下する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、2008/09年度の消費量が0.7百万トン上方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量が0.7百万トン下方修正された。その結果、2009/10年度の期末在庫量が0.7百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2010/11年度の冬大麦の作付けが11月には概ね終了した。11月中旬の暖かい天候と降雨により生育条件が改善され、12月以降、積雪により概ね好条件で休眠期に入っている。

【貿易情報】

輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

〔世界の生産量シェア 1位(2009/10年度 41.5%)〕
〔輸出量シェア 4位(2009/10年度 11.5%)〕

表-5 EU-27の大麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	57.5	65.5	62.0 (61.7)	-	▲5.3
消費量	54.2	57.5	59.0 (55.4)	-	2.6
うち飼料用	38.7	41.5	43.0 (42.4)	-	3.6
輸出量	3.8	3.6	2.0 (4.4)	-	▲44.4
輸入量	0.3	0.3	0.2 (0.3)	-	▲49.8
期末在庫量	5.7	10.4	11.5 (13.6)	-	10.8
期末在庫率	9.8%	17.0%	18.8% (22.8%)	-	1.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	13.80	14.57	14.06 (...)	-	▲3.5
単収(t/ha)	4.17	4.49	4.41 (...)	-	▲1.8

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (21 January 2010)」

〔世界の生産量シェア 3位(2009/10年度 8.0%)〕
〔輸出量シェア 1位(2009/10年度 34.6%)〕

表-6 ウクライナの大麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.0	12.6	12.0 (11.8)	-	▲4.8
消費量	4.9	6.0	6.4 (6.5)	-	5.8
うち飼料用	3.3	4.3	4.7 (4.8)	-	8.1
輸出量	1.0	6.4	6.0 (5.2)	-	▲5.8
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	25.0
期末在庫量	0.8	1.1	0.7 (1.6)	▲0.7	▲32.6
期末在庫率	13.9%	8.5%	5.8% (13.7%)	▲5.7	▲2.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.10	4.15	5.00 (...)	-	20.5
単収(t/ha)	1.46	3.04	2.40 (...)	-	▲21.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (21 January 2010)」

カ ロシア

【需給状況】

ロシアの生産量は、前年度より5.1百万トン減少（▲22.1%）し、18.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度並みの17.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少を受け、前年度より1.2百万トン減少（▲36.1%）し、2.2百万トンとなる見込みである。

期末在庫量は、1.2百万トン減少（▲33.0%）し2.4百万トンとなり、期末在庫率は12.6%（5.1ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の収穫は10月に概ね終了した。

ロシア農業省の11月の発表では、大麦の収穫量は乾燥調整前ベースで18.7百万トンで、豊作であった前年の78%である。シベリアで天候に恵まれ単収が増加したが、南ウラルや沿ボルガ地域の一部での干ばつの影響等から、豊作であった前年度より単収が減少する見込みである。

2010/11年度の冬大麦の作付けは、11月上旬に終了し、その後、概ね生育に適した天候で推移し、12月以降、降雪により概ね好条件で休眠期に入っている。

【貿易情報】

2008年7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

〔世界の生産量シェア 2位（2009/10年度 12.1%）
輸出量シェア 3位（2009/10年度 12.7%）〕

表－7 ロシアの大麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	15.7	23.1	18.0 (17.9)	-	▲ 22.1
消費量	15.1	17.1	17.1 (17.4)	-	0.0
うち飼料用	10.5	12.3	12.4 (12.4)	-	0.8
輸 出 量	1.0	3.4	2.2 (2.4)	-	▲ 36.1
輸 入 量	0.2	0.1	0.1 (0.2)	-	78.6
期末在庫量	1.0	3.6	2.4 (2.7)	-	▲ 33.0
期末在庫率	6.4%	17.7%	12.6% (13.4%)	-	▲ 5.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.60	9.60	9.10 (…)	-	▲ 5.2
単収(t/ha)	1.63	2.41	1.98 (…)	-	▲ 17.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (21 January 2010)」